

第1章 北東アジア地域自治体連合紹介

- 第1節 連合の創設過程 ● 027
- 第2節 連合の基本理念 ● 028
- 第3節 連合徽章の制定及び象徴 ● 028
- 第4節 連合会員及び組織 ● 029
- 第5節 歴代議長自治体 ● 031

The Association of
North East Asia Regional Governments



第1章 連合(NEAR)紹介

第1節 連合の創設過程

1. 創設背景

ア. 対立と緊張から友好と協力へ

世界は、交通・情報通信の発達、政治的緊張緩和などにより国境を越えた往来が一層活発になってきた。これからは、世界各国、各地域との緊密な協力が、国家経済や地域の発展の鍵となる時代が到来する。

イ. 世界経済のニューフロンティアと北東アジア相互の結束

新しい国際秩序の変革とともに、日本、韓国、中国、モンゴル、ロシアで構成された北東アジア地域は、無限の潜在力が新たに認識され、世界3大経済軸の一つとして浮上しつつある。北東アジア地域は、歴史・地理的に密接な相互関連性を有しており、これを基盤として、文化、学術、経済、環境、観光など多様な分野にわたって活発な相互交流・協力活動を行うことで、北東アジア地域の共同発展の可能性が注目されている。

ウ. 21世紀に向けた北東アジア交流協力の中心となる国際機関の必要性が増大

時代の変化に能動的に対応し、来る21世紀環太平洋時代に向けた共同繁栄と発展を目指すため、北東アジア地域の交流協力を主導して行く共同の窓口として、北東アジア地域を包括する共同体の形成が求められてきた。

2. 創設過程

- 1993年から日本、韓国、中国、ロシア4カ国の自治体が一堂に会し、北東アジア地域自治体会議がスタートし、1995年の第3回会議で1996年の会議を慶尚北道で開催することに合意し、国際機構化を推進
- 慶尚北道慶州で開かれた第4回会議を通して、北東アジア地域自治体連合憲章を採択し、名実ともに国際機構として創設

第2節 連合の基本理念

北東アジア地域の自治体は、互惠・平等の精神に基づいて、行政・経済・文化など全ての領域における交流協力を推進することで、地域の共同発展と世界平和に寄与する。

第3節 連合徽章の制定及び象徴

1. 連合徽章制定過程

既存の事務局徽章



制定された連合徽章



- 2004年9月 第5回総会で、日本の富山県と中国黒龍江省から提案された連合徽章制定の議題が通り、第6回釜山総会で決定することに決議
- 2005年11月 第5回釜山実務委員会で徽章の制定に関する具体的な推進方法について議論した結果「徽章制定委員会」を構成して推進することに決定
- 2006年5月 第1回徽章制定委員会を開催、既存の事務局の徽章を基にして、各委員が提起した意見を踏まえ事務局で徽章(案)を準備することになった。
- 2006年8月 第2回徽章制定委員会会議(釜山西面)で事務局が準備した徽章(案)をもとに委員の意見を聞き「徽章制定委員会」の最終案として確定し、総会で議決された。

《 徽章制定委員会 委員 》

中国(黒龍江省-楊鴻鵬)、日本(富山県-城木一郎)、韓国(釜山広域市-安ジョンイル)、モンゴル(中央県-ナムナンシレン)、ロシア(ハバロフスク地方-ベセディナ)

2. 連合徽章の象徴

- 基本図案は、「世界に開かれた地球村」を意味する球体の世界地図をベースに21世紀の世界の

新たな中心軸として浮上する北東アジア地域を緑色で表示し、平和と快適で豊かな北東アジアの未来像を象徴している。

- NEARは、North East Asia Regional Government Associationの略語で、それ自体近く親密さを意味する英単語「near」でもある。

第4節 連合会員及び組織

1. 会員資格及び現況

ア. 会員資格

- 日本、大韓民国、中華人民共和国、モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国、ロシア等の中で、北東アジア地域に位置する広域自治体として連合の設立目的に賛同する自治体

イ. 会員現況

- 1996年の創設時には、中国、日本、大韓民国、ロシアなど4カ国29の自治体が参加
 ○ 2000年 北朝鮮、モンゴル、ロシアの自治体の参加で6カ国40の自治体に拡大
 ○ 2006年 釜山総会 中国、韓国、モンゴル、ロシアの自治体の参加で6カ国65の会員自治体に拡大
 ○ 2008年 山東省総会 韓国(仁川広域市、大田広域市、光州広域市、蔚山広域市)、ロシア(マガダン州) が加入して6カ国69の会員自治体に拡大

《 会員自治体現況 》

2008年12月現在

国名	数	自治体名（加入年度）
韓国	15	慶尚北道('96)、慶尚南道('96)、江原道('96)、京畿道('96) 忠清北道('96)、忠清南道('96)、全羅北道('96)、全羅南道('96) 済州特別自治道('96)、釜山広域市('00)、大邱広域市('06) 仁川広域市('08)、大田広域市('08)、光州広域市('08)、蔚山広域市('08)
中国	6	黒龍江省('96)、河南省('96)、山東省('96)、寧夏回族自治区('00) 湖北省('06)、湖南省('06)
日本	10	新潟県('96)、富山県('96)、鳥取県('96)、島根県('96) 兵庫県('96)、京都府('96)、青森県('96)、石川県('96)、福井県('96)、 山形県('98)

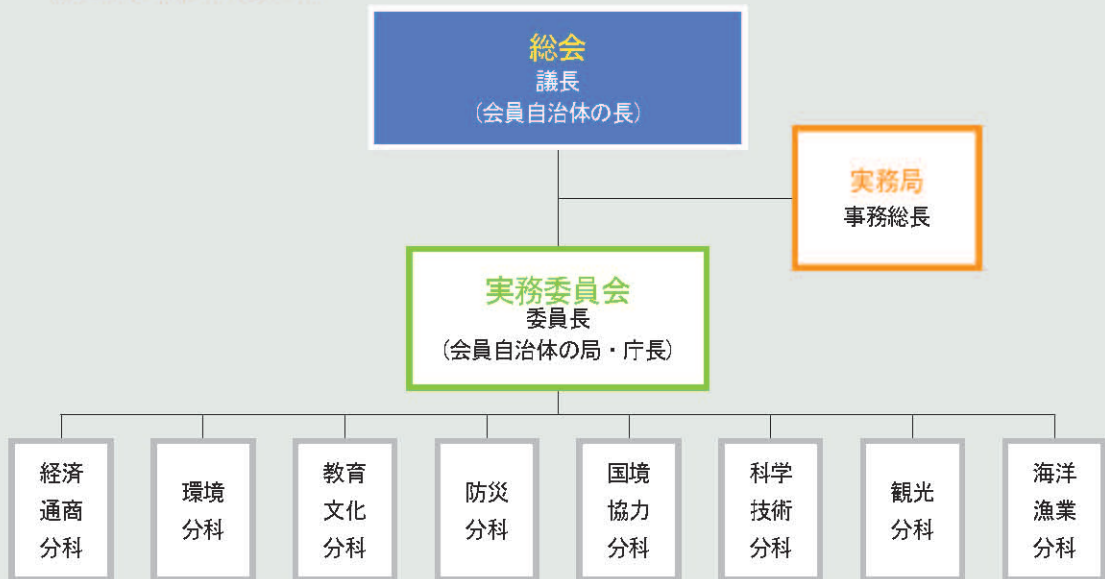
国名	数	自治体名（加入年度）
モンゴル	22	中央県（'98）、セレンゲ県（'02）、ウランバートル市（'06）、ドルノド県（'06）、スフバートル県（'06）、ヘンティ県（'06）、ドルノゴビ県（'06）、ドンドゴビ県（'06）、ウムヌゴビ県（'06）、ボルガン県（'06）、ウブスハンガイ県（'06）、バヤンウルギー県（'06）、アルハンガイ県（'06）、フブスゴル県（'06）、ザウハン県（'06）、ゴビアルタイ県（'06）、ホブド県（'06）、オブス県（'06）、バヤンウルギー県（'06）、オルホン県（'06）、ゴビスンベル県（'06）、ザウハン県（'06）
ロシア	14	ハバロフスク地方（'96）、サハリン州（'96）、アムール州（'96）、カムチャッカ地方（'96）、イルクーツク州（'96）サハ共和国（'96）、ブリヤート共和国（'96）、チタ州（'96）、沿海地方（'98）、トムスク州（'06）、クラスノヤルスク地方（'06）、トゥヴァ共和国（'06）、アルタイ地方（'06）、マガダン州（'08）
北朝鮮	2	咸鏡北道（'02）、羅先特級市（'02）



2. 連合の組織

○ 連合の組織は、総会、実務委員会、分科委員会、事務局で構成

《 連合組織の構成図 》



第5節 歴代議長自治体

区分	期間	議長団体及び代表者	総会
初代議長	'96.9～'98.10	慶尚北道 李義根 知事	
第2代	'98.10～'00.9	富山県 中沖 豊 知事	
第3代	'00.9～'02.9	兵庫県 井戸 敏三 知事	
第4代	'02.9～'02.9	ハバロフスク地方 イサエフ 知事	
第5代	'02.9～'04.9	黒龍江省 張左己 省長	
第6代	'04.9～'06.9	釜山広域市 許南植 市長	
第7代	'06.9～'08.9	山東省 韓寓郡 省長	
第8代	'08.9～'10.9	京畿道 金文洙 知事	